

編集・発行 群馬大学 研究・産学連携戦略推進機構 首都圏北部4大学連合運営協議会(4u)事務局
TEL 0277-30-1182 FAX 0277-30-1192
〒376-8515 群馬県桐生市天神町1丁目5番地1号 URL <http://www.ccr.gunma-u.ac.jp>

首都圏北部4大学連合(4u)の活動に対する文部科学省「産学官連携自立化支援プログラム」における中間評価とそれに対する回答について



首都圏北部4大学連合 運営協議会 事務局長・群馬大学 教授 伊藤 正実

首都圏北部4大学連合(4u)の事業は、本年から文部科学省の補助事業「大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型) 特色ある優れた産学官連携活動の推進」として活動に取り組んでいるが、一昨年からの「産学官連携戦略展開事業・戦略展開プログラム」での活動について7月に中間評価が実施された。その評価結果は“B”で、“おおむね順調に進捗しているが、助言等を踏まえ、当初目的の達成に向けて、一層の努力が必要と判断される。”であった。また、下記の大学等産学官連携自立化促進プログラム推進委員会の中間評価コメントが提示されている。

【大学等産学官連携自立化促進プログラム推進委員会の中間評価コメント】

4大学の連携という容易でない事業ではあるが、技術相談の共有化体制が構築され、また、それぞれの大学において特許の出願件数、共同・受託研究件数等を順調に伸ばしているなど成果はよく上がっており、広域での産学官連携の成功事例であると評価できる。しかしながら、4つの分科会活動から各大学間の温度差はまだ解消まではいたっておらず課題となっている。今後は、4大学が連携するメリットを再確認するとともに、技術説明会や講演会の実施にと留まらず、知財管理や契約の進め方など実務的な業務に関する対応法を共有化するなど、具体的な仕組みをプロジェクトに盛り込んで活動を行っていただきたい。

文部科学省に提出した改善報告の概要は以下の通りで、今後、4つの大学が相互にその持つ専門性を補完しつつ、“県境を越えた産学官連携活動”の更なる発展と拡大に努めていく事が4大学の間で合意形成されている。

1. 各大学間の温度差と広域連携のメリットの確認について

4u事業は、大学の知的資源の社会への還元を最重要な目標としている。従って、各分科会活動は、大学の知的資源の社会還元を進める上でどうあるべきかという見地から推進することとし、その中で特に、北関東での県境を越えた産学官連携事例を増やしていき、広域での連携のメリットを明確化できるよう努力する。

さらには、産学連携における地域の経済効果等に関する調査を実施し、その結果をベースにしてそれぞれの分科会活動の在り方について再度検討を行い、次年度以降の活動に反映させていく。また、各県の自治体、産業支援機関、連携大学等を結び、より広域の技術相談受付体制を構築していく。

2. 業務の共有化について

評価コメントの知財管理等に関連した実務的な業務についての対応としては、知財人材の教育・啓発分科会(主担当:宇都宮大学)が中心となり、次の項目を実施する。

- (1)各大学で行われている知的財産の管理、契約交渉の取り扱い、利益相反や外為法等への対応において、特に先行した取組を4大学で共有して効率的対応を図り知財管理組織の質的向上を目指していく。
- (2)この会議には4大学の産学連携の実務者や事務職員、さらには各大学が地域で連携している高専、公私立大学にも参加を呼びかける。

3. その他

すでに、各地域を循環して4大学合同で開催している新技術説明キャラバン隊はじめその他の4u事業活動においては、テーマ設定等に自治体や産業支援機関の意見が強く反映されている。今後は、自治体主催の研究会活動とのタイアップを図るなど、連携を一層深め、産学官の連携の模範的地域と認知されるべく、地域企業の潜在的ニーズを踏まえた事業を強化し、イノベーションにつなげていくことを考える。

■ 4u 活動報告

◆ 地域ブランド創出分科会（主担当：茨城大学、副担当：埼玉大学）の活動

1. 地域ブランド創出・支援テーマの推進状況

- (1) バイオ燃料プロジェクトにおける“残さ”有効活用→スイートソルガム絞りかすの利活用を検討中。
- (2) ぶどうを有効利用した機能性飲料の開発→機能性成分分析に関する共同研究が完了しました。
- (3) “ヤーコン”の新需要創造プロジェクトへの協力→活動PRおよび商品化に協力頂ける企業を探索中。

2. 産学官連携事例講演会の開催

平成22年9月17日、第2回を茨城大学 水戸キャンパスで開催しました。5件の連携事例について、大学側と企業側双方から発表という形式で実施し、参加者は77名でした。今回の工夫として、連携している茨城キリスト教大学からも事例講演頂くとともに、講演者ならびに茨城高専、福島高専参加によるポスターセッションの時間を設けることで、各大学・高専と参加者が、より気軽に交流できる場を提供できたと考えます。



◆ 知財人材の教育・啓発分科会（主担当：宇都宮大学、副担当：群馬大学）の活動

1. 弁理士チャレンジ講座



10月9日～10月30日の毎週土曜日、午後1時～5時、4回にわたり「弁理士チャレンジ講座」（講師は宇都宮大学客員教授・特任教授5名）を宇都宮大学で開催した。出席者は30名（会社員12名、支援機関職員4名、大学教職員5名、学生4名、社会人等・5名）、延べ79名であった。受講動機は、弁理士試験受験中又は考慮中：11名、知財関係の知識を深めたい：12名、就職後に役立てるため：2名、一般教養として：5名であった。11月13日～12月4日、群馬大学太田キャンパスで同様の講座を開催する。

2. 知財管理研究会

知財管理や契約業務について首都圏北部4大学間および連携大学で情報を共有化して効率的な業務運営を行うことを目的に「知財管理研究会」を当分科会内に立ち上げ、年度計画、研究会のテーマ設定を行った。4大学持ち回りで年4回程度開催を予定している。

◆ 技術移転分科会（主担当：群馬大学、副担当：茨城大学）の活動

1. 科学技術振興機構（JST）支援「首都圏北部4大学発新技術説明会」

6月30日、7月1日の両日、4u及びJSTの主催、中小企業基盤整備機構の後援でJSTホール（東京・市ヶ谷）において開催しました。

1日目はライフサイエンス分野の11件、2日目はナノテク・材料分野及びもの作り技術分野の計9件の発表を行い、163名（各発表へは延べ802名）と多くの方の参加をいただきました。また、発表者の先生への個別相談は合計29件行われましたが、この他に個別相談とは別に名刺交換・情報交換が合計54件ありました。今後の展開に期待しているところです。



2. 新技術説明会キャラバン隊（各県持ち回りで開催）



第9回を、5月10日に群馬大学を開催担当校として前橋市にて開催しました。地域の企業ニーズを踏まえテーマを「次世代ロボット産業の関係技術」とし、次世代ロボット産業に関係した技術をキーワードに、各大学の研究者6人が107名の参加者へ研究内容や特許等の紹介を行いました。今回初めて、4uと連携する大学・高専（前橋工科大学、群馬工業高等専門学校、足利工業大学）からパネルやロボット実機展示も行われました。

第10回は、10月19日に宇都宮大学を開催担当校として宇都宮大学で開催しました。テーマは地域ニーズを踏まえ「水と食・農の関係技術」とし、水と食・農に関係した技術をキーワードに、各大学及び連携大学等の研究者6人が研究内容や特許出願等を紹介しました。連携大学等としては、小山高専から発表いただきました。





また、発表に先立ち、財団法人栃木県産業振興センター理事長・黒崎日出雄氏が特別講演「水の産業」と題して講演されました。

説明会への参加者は、116名で、うち企業関係37名、官・支援機関関係42名、大学関係37名でした。講演後の個別相談は、今回のテーマが「水と食・農」と身近で今日的なものであったことから、過去最高の14件行われました。

◆ 研究シーズ創出分科会（主担当：埼玉大学、副担当：宇都宮大学）の活動

1. 研究シーズ創出研究会

4u地域の共通の課題に対する大学の研究シーズの活用と新たな展開を目指し「食の安全と健康研究会」を重点テーマに設定し、各大学から9研究テーマの提案、延べ26名の連携研究教員の下で検討を進めてきました。「残留農薬の迅速分析法の研究会」「水・土・食の持続的健全性の確保に関する研究会」「コンニャク利用機能性食品開発研究会」「調理ずみ食品の特徴と食生活教育研究会」「機能性食品素材研究会」など、具体的な研究課題の設定と情報交換から、一部では共同研究の開始や産学連携での応用食品の開発検討へ進展しています。

これらの研究会活動を紹介すると共に関連した研究を紹介し、産業界からの参画を広く呼びかけることを目指して、11月26日「食の安全と健康に関する公開シンポジウム」(会場：埼玉大学)を計画、4u及び連携大学教員による5件の講演の他、臨床医による特別講演（食事による癌の改善）を予定しています。

◆ 全体・事務局の活動

4u全体・事務局と各分科会活動等を紹介します。

1. 4u活動推進のための広報活動の一環として、6月5日、京都市での科学技術フェスタにて、4u各大学の出展ブースの中央に4uブースを設け4u活動の紹介・広報を行いました。



2. 6月7日、前橋市にて開催された第6回群馬産学官連携推進会議や、各大学の企業交流会等でも4uブースを設け活動紹介・広報を行いました。
3. 4uホームページに各イベント等の活動について掲載しています。説明会資料、研究室紹介・シーズ集も公開しています。

<http://www.ccr.gunma-u.ac.jp/4u/index.html>

4. 活動の推進、連携強化への取り組みとして、4県や各県の支援機関等と随時、打合せを実施しながら活動を推進しています。

4県と4uの意見交換会は、6月15日に群馬県、8月4日に茨城県、8月10日に埼玉県、8月23日に栃木県と行われ、4uの活動内容報告、各県の産業振興の考え方と施策について説明がありました。



■ 今後の4u活動計画

◆ 地域ブランド創出分科会の活動

1. 現在の地域ブランド創出、支援テーマの推進を継続していきます。同時に、4大学・4県の地域ブランド化活動の実態調査を行い、4uで情報共有と広域連携の可能性について検討を行っていきます。3月には、着手中のテーマについて活動報告会を開催します。
2. 4uの産学官連携事例の調査・収集・蓄積を行っていきます。特に“広域連携”の事例に注目し、連携のきっかけ、成功のポイントなどの絞って、今後の講演会や事例集で紹介していくことにしています。

◆ 知財人材の教育・啓発分科会の活動

1. 講師に山口大学佐田教授をお招きし、12月20日(月)、埼玉大学で第3回知財実践セミナーを開催します。
2. 第1回の知財管理研究会を11月30日(火)、宇都宮大学で開催します。
3. 栃木県の大学等における知財教育の実態についてのアンケートを来年早々に実施します。

◆ 技術移転分科会の活動

1. 第11回新技術説明会キャラバン隊を、2011年1月21日(金)に茨城県で開催します。
2. 研究室紹介・シーズ集(4u)第4号を2011年2月中旬に発刊します。これまでよりも、4大学と連携している公私立大学等高等教育機関の紹介研究室数を増やします。

◆ 研究シーズ創出分科会の活動

1. 11月26日(金)に埼玉大学にて、「食の安全と健康に関する公開シンポジウム」を開催します。
2. 「食の安全と健康」研究会の個別研究会(現在5件)に企業の方々に参加して頂く工夫をし、産業ニーズに一層基づいた研究会に発展させて行きます。

◆ 全体・事務局の活動

1. 2011年3月11日(金)に埼玉大学にて、4u運営協議会等を開催し、活動総括、新年度活動内容を定めます。
2. 4uホームページの充実や、各種展示会等への4uブースの出展を行い、4u活動の広報に努めます。

■ 4大学のトピック報告

■ 茨城大学 「工学部 研究室訪問交流会」開催

茨城大学と茨城産業会議による連携事業として、9月29日に工学部にて、研究室訪問交流会を開催しました。本年は、84名の方々にご参加頂き、5班に分かれ、6つの研究室見学を行いました。見学に先立ち、都市システム工学科の「光ファイバセンシング技術の高度化と応用」に関する研究紹介も行われ、多くの貴重な情報が得られると好評でした。



■ 宇都宮大学

1. 第4回宇都宮大学企業交流会

9月6日(月)「第4回宇都宮大学企業交流会」を開催した。今年度はマロニエプラザ大展示場で開催し、企業関係者や地方自治体、大学関係者、学生など500名を超える参加があった。宇都宮大学と企業様との共同開発による産学官連携事例(製品)15件を出展し、活発な議論に加え、マッチングの成果もあった。



2. しもつけバイオクラスター発足

本年4月から「しもつけバイオクラスター」事業を発足させた。この事業は大学の地域貢献機能の充実を



目的に、文部科学省の概算要求の特別経費で認められたもので、地域の「食」「農」「環境」分野でのイノベーション創出を目指している。

「しもつけバイオクラスター」は宇都宮大学が母体となり、行政や地域の企業、農家などと連携して共同研究を推進し、バイオイノベーションの創出を目指している。「しもつけバイオクラスター」では技術相談を始め、共同研究、交流会、フォーラム(講演会)など様々な活動を行っており、フォーラムは2回実施し、いずれも100名以上の参加者があった。今年度はこのあと2回の

フォーラムを実施予定である。また、共同研究も大学と地元企業や公設試との間で16件が開始されている。

■ 群馬大学 「医工連携研究会」の開催

8月24日(火)に群馬県及び前橋工科大学と共催で、医工連携研究会「医工連携によるイノベーション創出と地域社会の活性化」を、県内外から約80名の市民、企業関係者や大学関係者等の参加で開催しました。すでに医工連携研究会は、先端医療技術、情報通信技術及びものづくり技術を活用した革新的な医療・介護技術の研究開発、県内ものづくり企業による健康関連産業への新規参入を産学官一体となって推進していこうという趣旨から過去5回にわたり開催してきたものです。今回は、小島至群馬大学生体調節研究所長による「再生医療～夢物語でない臓器再生～」の基調講演に続き、学の立場、産の立場から3件の講演が行われ、医工連携による地域社会を結びつける可能性について、興味深い講演が行われました。次回は、12月2日に「医療・介護・福祉機器の開発とその実用化」をテーマに前橋市で開催します。



■ 埼玉大学 学園祭「むつめ祭」への出展

第61回「むつめ祭」が、10月29日から31日にかけて開催されました。あいにく30日は台風14号の接近により中止となり、2日間の開催となりました。この祭典に、地域オープンイノベーションセンターとして久しぶりに出展しました。その内容は、本学研究成果であるβグルカンを多く含む大麦の入った焼きうどん等の販売や産学官協議会の概要やその成果に関する展示です。2日間の短縮開催にもかかわらず、焼きうどんは完売するほどの好評を博しました。産学官の成果を学園祭でPRすることにより、地域の皆様に理解いただく絶好の機会となりました。写真は、出展テントです。

